

叢書

ぶそうそうしょ

#54

武相叢書

いしのあきら

作者:石野瑛(1889-1962)

成立:昭和4~16年(1929-1941)



叢書解題

『武相叢書』刊行の趣旨は、武蔵・相模両国に残る歴史資料から「武相文化研究上価値多きもの」を選んで逐次刊行すると述べている。発行所は石野瑛が主宰する武相考古会。昭和4年から16年にかけて、史料部6編、考古部4編の10冊を刊行した。内容的には史料集と石野瑛の著作集を兼ねるものになっている。なお、考古部第4編以外の9冊については、昭和48年に名著出版から覆刻版が刊行されている。



構成及び各巻解題

史料部各篇は、武蔵・相模のうち主として神奈川県下の文書・記録・絵図・金石文等の史料を編纂・翻刻したものである。

第1編 『亜墨理駕船渡来日記』 [K25. 1/6A]

嘉永7年(1854 安政元年)のペリー艦隊再来航時の状況を詳細に記録した「亜墨理駕船渡来日記(石川家所蔵本)」と「亜米利加船渡来日誌(添田家所蔵本)」の2種を収録。当時の幕吏の記録を写したものが横浜の民間に伝わったとみられる。校訂は石野瑛。

第2編 『金川砂子 附神奈川史要』 [K21. 12/3]

文政7年(1824)に煙管亭喜荘が、生麦松原から程谷(保土ヶ谷)入口までの東海道沿道の風物を描き、また神奈川宿内の名所旧跡の由来、神社仏寺の沿革を記述した地誌を影印で収録する。著者の経歴等は不明である。今昔の比較の参考として石野瑛著の「神奈川史要」を併催。

第3編 『相模大山縁起及文書』 [K18. 64/1A]

大山阿夫利神社及び大山寺所蔵の絵巻・古文書類を主に収録する。内容は、大山関係古文書20点の影印、大山縁起絵巻から抜粋した図像部分の影印、大山縁起3種の翻刻、明治期の稿本「大山史」及び「阿夫利神社古今事記」の翻刻、さらに校訂者石野瑛の文章「平塚及び附近の史的概観」から成る。

第4編 『小田原及箱根史料』 [K27. 7/1A]

小田原及び箱根の古絵図・古文書等を影印と翻刻で掲載する。小田原とそ

の近郊については、西光院、蓮上院、伝肇寺、玉伝寺、本誓寺、報徳二宮神社、片岡家、剣持家、青木家、杉田家、高橋家、内田家所蔵のものを、また箱根及び千石原については、石内家、福住家、千石原村役場、長安寺、勝俣家所蔵のものを収録している。編集・校訂は石野瑛。また、本書後半には、小田原の郷土史家・片岡永左衛門が家蔵の記録・文書や自身の見聞をまとめた著作「馱鈴余音」を併載する。

第5編 『横浜文書及石川家史稿』 [K21. 13/2A]

横浜文書は横浜旧平子郷（現在の中区・南区・磯子区にわたる地域）に関する深い社寺・旧家、すなわち宝生寺・弘誓院・弘明寺・十二天・本牧神社・石川家・林家等が所蔵する文書・記録を収録する。後半に石野瑛の著作2編を併載する。「横浜史要」は横浜の歴史概説であり、「石川家史稿」は横浜の旧家石川家の歴史についての研究的著作である。

第6編 『横浜旧吉田新田の研究』 [K61. 13/2A]

江戸時代の干拓で出現した吉田新田は、近代以後横浜の市街地として発展するが、この地域を中心に横浜の歴史を叙述した石野瑛の研究書である。次の内容で、第4章に史料の翻刻を収める。

- 第1章 横浜の歴史地理学的考察
- 第2章 横浜開発の先駆吉田勘甚兵衛良信
- 第3章 横浜市の核心旧吉田新田
- 第4章 旧吉田新田関係史料
- 第5章 吉田家故地の探査と同家の報本

図版として、「吉田新田埋立開墾前横浜古図」「吉田新田埋立開墾古図」他を掲載している。

考古部各篇は、石野瑛の考古学及び歴史に関する調査・研究のノートである。

考古第1編 『考古集録 第1 論考説話及武相踏査雑記』 [K23/3A/1]

「論考及び説話」は考古学と郷土史に関する評論及び講演。「武相踏査雑記」は各地の発掘調査の記録を中心とした文章を集めている。

考古第2編 『考古集録 第2 相模中部遺蹟及史跡調査記』 [K23/3A/2]

「相模中部遺蹟概説」と「相模中部踏査雑記」を収める。平塚・大磯・秦野を中心とする地域を対象とする。

考古第3編 『考古集録 第3 相模中部以西踏査雑記及国府趾研究』 [K23/3A/3]

「相模中部以西踏査雑記」は第2編に続き、大山とその周辺、酒匂川流域が対象。「相模国府趾研究」は相模国府についての考察。

考古第4編 『考古集録 第4 石器時代遺蹟調査記5篇』 [K23/3/4]

横浜市三ツ沢台及び沢渡遺蹟、中郡金目村五領ヶ台貝塚、足柄上郡山田村住居趾と金子台遺蹟、愛甲郡半原白ヶ谷及び原白住居趾、津久井郡川尻村谷ヶ原住居趾群についての調査記録を収録。